

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和3年5月20日発行

小木のよさを学ぶ

校長 齋藤 光夫

今年度、始業式の話では、岩のりやサツマイモの産地、横井戸、金の道、三味線堀についてのなぜ？を子どもたちに問いました。そして、5月の全校朝会では、小木おけさや民謡クラブのよさについて話をしました。話のねらいは、今年度の異動で赴任した先生方が多かったこともあり、小木地区に寄り添った学びを進めるきっかけにしたかったことと、もう一つは、子どもたち自身に対し、小木地区を見つめ直してほしいと考えたからです。

小木小学校では、これまでの教育活動の見直しを始め、小木地区のよさを再発見していく活動をさらに充実させたいと考えています。しかし、小木地区で生活している子どもたちにとって、身近な小木地区のよさに気付いていないことも多く、知りたいという思いもそれほど強くは伝わってきません。一方で、小木地区では「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を目指した取組を行っており、今年度から具体的な調査も始まると聞いています。小木地区のよさをもっと理解できる小木っ子への期待も高まっていると感じています。

4月29日、佐渡汽船の小木港と直江津港を結ぶジェットfoilが就航しました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大の心配もあり、多くの観光客で賑わうまでには至りませんでした。そのような中でも、新潟日報で紹介される取組がありました。小木小学校4年生が総合的な学習の時間を利用して取り組んだ活動の一端です。

4年生は、等身大に描いた「自分」とともに、来島した乗船客に観光紹介を行う掲示物を作りました。目的は、「来島者は佐渡のどこに行くのだろう」という素朴な疑問を解決することです。「佐渡のどこに行きますか？」と選択肢から選ぶ簡単なアンケートにも協力してもらいました。

その結果は右のとおりです。

注目しているのは、小木の街を目的地に来島した方が尖閣湾やゴールドパークを抜いて4位となっている点です。たらい船や宿根木を含めると、小木地区を目的地とした来島者が4人に一人の割合となります。

今回は、来島者も少なく、回答数もわずかでしたが、子どもたちの新たな疑問（活動エネルギーとなる主体的な課題）が生まれるきっかけとしては十分でした。

子どもたちは、小木の街を目的に来てくださった来島者が「何を見に来たのだろう。学校の近くに見所はあるのだろうか。」と考え始めました。

他の学年も含め、小木っ子たちの小木のよさ探しは始まったばかりです。これからも温かい眼差しでのご支援をよろしく願いいたします。



佐渡金銀山	37.5 %
西三川ゴールドパーク	4.2 %
トキの森公園	29.1 %
たらい船	4.2 %
矢島経島	0 %
宿根木	12.5 %
小木の街	8.3 %
二ツ亀	0 %
尖閣湾	4.2 %